

## 序

芳村弘道先生は、二〇二〇年三月をもってご定年を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生の長年にわたるご功績を称え、深い感謝の意を表すため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

芳村先生は、一九七九年三月に立命館大学文学部文学科中国文学専攻をご卒業後、本学大学院文学研究科博士課程前期課程東洋思想専攻に進学され、一九八二年三月に同課程を修了されました。そして一九八二年四月に同研究科博士課程後期課程東洋文学思想専攻に進学され、一九八五年三月に同課程を単位取得満期退学されました。その後、一年間の研究生としてのご経験を経て、一九八六年四月から文学部の非常勤講師として教鞭を執られました。先生はのちに記す本学ご着任までずっと講師としてご出講されたので、三十四年間、文学部における教育に携われたこととなります。その後、一九八九年九月に就実女子大学文学部に着任され、二〇〇〇年三月まで同校での教育に尽くされます。そして二〇〇〇年四月、本学文学部に教授としてお戻りになりました。その後の先生のご活躍は私どもみなよく知るところです。

先生は中国中世文学・漢籍書誌学を専門とされ、多数の著書、論文を記されました。なかでも、「元版『分類補註李太白詩』と蕭士贇『日本中国学会報』第四二集（一九九〇年一〇月）に対して日本中国学会賞（一九九一年）を受賞されたこと、『唐代の詩人と文献研究』（中国芸文研究会、二〇〇七年）によって博士（文学、立命館大学）を授与されたことが特筆されます。その他の先生の業績については、著作目録をご覧ください。

芳村先生はその教育・研究を通して多くの学部生と大学院生を育成されました。毎年、専攻の学生を引率して博物館などに見学実習に行き、書籍・絵画を始め多くの文化財に触れる機会を作り、中国文化への関心を引き出すことをされてきました。教材としても、「中国文学概論」の教科書作成や、専攻の『研究のしおり』の「中国の書物の歴史」部分の執筆をされました。大学院博士課程後期課程の教育では、博士論文の指導、主査・副査としての審査、中国からの留学生の受入れと指導を多く担当されました。また中国から研究者を客員研究員として積極的に受入れ、教学の国際化にも貢献されました。

一般財団法人橋本循記念会では一九九九年より評議員、二〇〇五年より理事、二〇一四年より代表理事を務められ、本学白川静記念東洋文字文化研究所では副研究所長として運営全般に携わりつつ研究所紀要の編集や白川賞の審査委員を担当され、特に日中韓漢籍研究プロジェクトの代表として、南京大学域外漢籍研究所と韓国高麗大学校漢字漢文研究所と共同運営を行っている「東亜漢籍交流国際学術会

議」の主要メンバーとして活躍されるなど、学内外での活躍も目覚ましいものがあります。

文学部教授会は、先生の永年のご貢献に謝意を表するため、来る二〇二〇年四月一日付で先生に名誉教授の称号をお贈りするよう全学の手続きを進めました。同時に特任教授として、しばらくは引き続き芳村先生に教鞭を執っていただけのことを、大変ありがたく存じます。今後とも、文学部、東アジア研究学域、中国文学・思想専攻へのご助言を賜ることができますれば、幸甚に存じます。

二〇一九年十二月

文学部長

米 山 裕